

A-5

独検対策対応となるドイツ語文法 Web コンテンツ

The interlocking Web contents of German grammar with the German certificated examination

○柳武司¹, 中川浩¹

○Takeshi Yanagi¹, Hiroshi Nakagawa¹

Abstract: The German e-Learning system was developed in 2005, and eight years have passed since we made it. Now, we are approaching the following two problems to create the Web contents of the German e-Learning system.

- (1) To create the Web contents of German grammar in order to pass the German certificated examination
- (2) To make instructions for the German grammar and support user's corrections by the system

We want to resolve this problems here in order to realize the new e-Learning system.

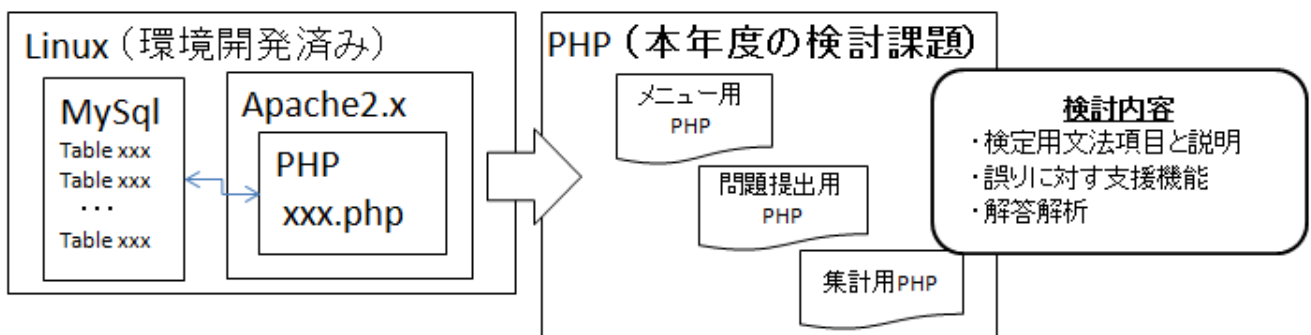
1. これまでの取り組み

e-Learning を使ったドイツ語学習システムへの取り組みは、平成 17 年度の情報教育研究センターの公募制研究に認められた「e-Learning を使ったドイツ語学習支援システムの構築のための基礎研究」から具体化が進み、翌年には e-Learning ソフト「100 語で覚えるドイツ語」へと結実し、平成 24 年の現在本研究は 8 年目を迎えるようとしている。過去の作業実績として更に、音声を利用した聞き取り問題を含むドイツ語検定試験に対応した問題作成、語彙力の強化、そして昨年度からは新規ドイツ語 e-Learning システムの構成について検討し、秋季独検の合格実績へとつなげた。そこでは、対話形式を含む独自の e-Learning 構築を開始し、学習者の解答およびその正誤も蓄積して、個々人の学習に応じた独検対策システムになるようなシステムを構築中である。本年度は、Web システム上に展開するドイツ語文法に関しての実質的な内容となるコンテンツと語学学習を支援する補助機能をどの様に実現してゆくかをここで整理し、妥当性を検討したい。

2. 検討課題

ドイツ語 4 級合格を目標として、質の保証の意味合いも含めてこれまで対象語彙の範囲を確定して来た。昨年構築した開発環境は、サーバ上の新 e-Learning システムの構成としては、Linux 上で Web サーバとして Apache、プログラムを PHP で作成し、データベースとして MySQL を稼働させ、Web ユーザを含めた構成図が下記の様になった。

作成している e-Learning システムのイメージ図



1 : 日大理工 一般教育教室

本年度検討対象となるのは、1) 必須とすべき文法項目に応じた Web コンテンツの作成、2) 文法説明と誤答時の支援機能になる。

2. 1 必須とすべき文法項目に応じた Web コンテンツの作成

毎年秋に行われるドイツ語検定の日程は、勤労感謝の祝日となる 11 月 23 日に行われる。合格目標とするドイツ語検定試験を 4 級とすると、新システムでは 11 月 23 日までの授業回数を前期 13 回と後期 7 回程度の 20 回で以下の文法項目に応じた問題を提供したい。

- 1)動詞現在人称変化用問題 … 規則変化動詞と不規則変化動詞 (特に sein,haben など重要動詞)
- 2)語順に関する問題 … 平叙文・疑問文 (疑問詞も含む)
- 3)名詞に関する問題 … 名詞格変化、単複、冠詞類の語尾変化と冠詞の種類を含む
- 4)前置詞に関する問題 … 空間・時点・様態・因果関係に区分した前置詞の整理と熟語
- 5)代名詞に関する問題 … 1・2 人称と 3 人称の明確な区別と文法的照応関係
- 6)接続詞に関する問題 … 並列の接続詞と従属接続詞
- 7)話法の助動詞に関する問題… 話法の助動詞が表す機能と語順

7 項目を挙げたが、これらは均等な分量ではなく、例えば 6)接続詞などは 90 分間を要するものではないが、逆に 3)の名詞変化については数回の授業によって理解されるものであり、より詳細な文法項目を明文化してページ構成に反映させる必要がある。また、文法項目の習得に加え、語彙的な意味の類似性も理解できるような問題を組み込んで、総合的な検定対策問題となるページ構成にする必要がある。

2. 2 文法説明と誤答時の支援機能

外国語教育の一環としてドイツ語文法を習得させることを目的として e-Learning システムを構築しているのであるが、英語教育の場合との違いは何であろうか。現在、英語は世界の共通語となり、外国語としてよりも「世界語」として会話によるコミュニケーションあるいは論文等の世界で展開する文書作成を重視した言語となっている。これに対してドイツ語教育の場合、日本語話者である学生がドイツ語を母国語とは異なる外国語として意識的に観察できる教育が重視されるのではないか。こうした教育環境上の意味合いから、ドイツ語文法問題には、ドイツ語検定合格という目標を提示すると同時に、英語や日本語との差異や同一性を意識化できる説明も加えて問題に取り組めるようなページ作成を行いたい。

問題解答後に誤りがあった場合、その誤りに応じた文法説明を行い、誤った問題に類似する問題提供が可能であるプログラムルーチンも必要と思われる。強制的に別の問題を実行させる必要はないが、誤りに対して文法説明を加えて即時的な解決を行う方が、弱点の少ない文法体系を習得できる。この支援機能を実現するには、誤答の傾向分析など解答の仕方を DB に蓄積して、分析後に支援機能を強化するためのページを追加・更新することになる。

3. 課題

現在理工学部では、Moodle による授業支援サイトが運用されている。これに対して本システムでは Moodle と重複する機能もあるが、語順に関する問題など特化して作りこまなければならないページも存在する。誤答があった場合、誤りに応じた対話型説明を充実させる必要もあるが、CMS などのツールを共同で使用している場合、それに沿った問題作成の可能性も模索してゆきたい。

4. 謝辞

本研究を進めるにあたっては、情報教育研究センターからの多年にわたる支援と協力が無くてはならない基礎となっており、また英語系列、初修外国語系列の e-Learning 研究グループの方々の後押しのおかげでここまで研究を継続することができた。あらためてここで感謝の意を表したい。